永明中学校校庭遺跡

弥生時代の茅野 思いをはせて

尖石縄文考古館 発掘担当者が解説

茅野市尖石縄文考古館で15日、同市塚原の永明中学校校庭遺跡の発掘担当者によるギャラリートークが行われた。同館ロビーで開催中の「永明中学校校庭遺跡速報展　弥生時代後期の墓制」の関連イベント。市文化財課の堀川洸太朗さん(28)が調査結果や出土品について解説した。

同遺跡は永明小中学校の建て替え事業に伴って発見された弥生時代後期の集落遺跡。市教育委員会は2022年10月～23年6月、校庭に隣接する社会体育館の建設予定地で発掘調査を行った。調査では6カ所の墓坑などを確認し、遺跡北側に墓域を形成していたと推測できる成果を得た。

ギャラリートークでは、速報展で展示中の高さ約30～60㌢の土器のつぼとかめ計3点や遺跡の概要を示したパネルを見ながら堀川さんが話した。土器について、堀川さんは「骨つぼのように使用されていた」と推測し、「表面の焦げから煮炊きに使っていたものを転用したことがうかがえる」と説明。土器の模様から東北信地域との交易があった可能性なども示し、来場者に「今回の展示品を見て弥生時代の茅野市内に思いをはせてほしい」と呼び掛けた。

速報展は9月3日まで。観覧無料。問い合わせは同考古館（電話0266・76・2270）へ。（久保勇名）

2022年10月～23年6月に実施した永明中学校校庭遺跡の発掘調査で出土した土器などについて解説する堀川さん㊨